

大事な人を、二駅先に置いてきた

大岡俊彦版

①

まだ青字のメモで
テクニカル部分の
読み方。

②

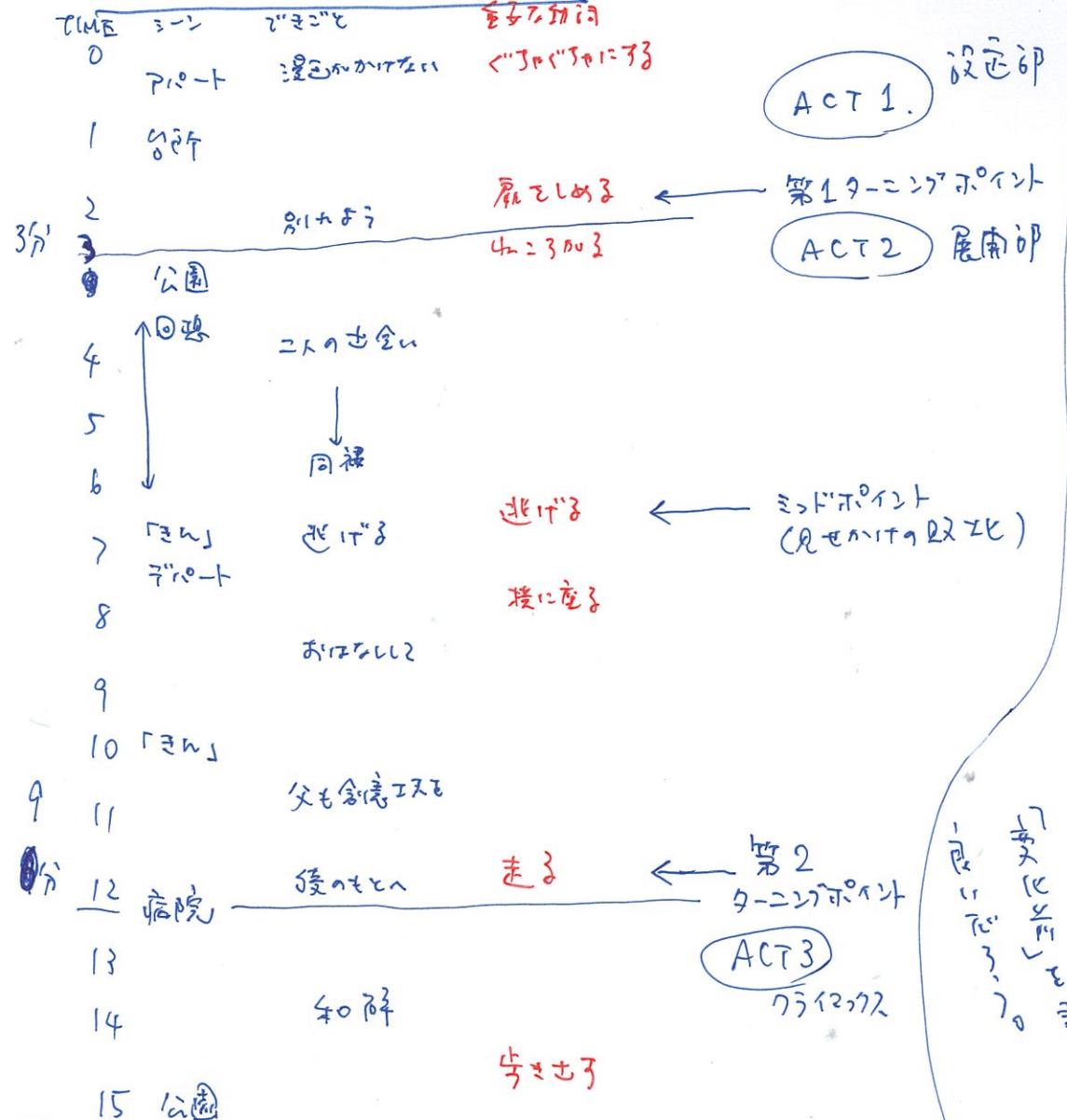
絵に肉する
部分を
見て下さい。
設定
小道黒へなど。

③

日取ね
動詞印分
注目してみましょ
う。
読み解説が下すと
動詞表現されてい
ます。
アクション=動詞+動作
映画はアクション=表現
メイアジング。

全作の構成： 行きと帰りし物語

	ACT1	ACT2	ACT3
θ常	→	旅	→ θ常
較	対象	対象	対象



New

苺の母 (6)

父 (5)

綾 (4)

迷子。

健の母 (5)

健の父 (2)

饅頭屋 (3)

登場人物

綾 健 (2)

9 (3)

0 (0)

漫画家を目指している。
健と同棲中。看護師。

1 朝起きて
2 朝起きて
3 朝起きて
4 朝起きて
5 朝起きて
6 朝起きて
7 朝起きて
8 朝起きて
9 朝起きて
10 朝起きて
11 朝起きて
12 朝起きて
13 朝起きて
14 朝起きて
15 朝起きて

人物紹介

一説程反応してないみたい。

この人物の初期設定は
「〇〇なん」程度でいい。

○ 健のアパート、深夜

動詞による表現

「夜明け」
ラストシーンの後の
セリフへの伏線が見えます。

漫画のネーム（ラフ絵やセリフ）を描いている健（30）。しかし筆が進まず、鉛筆でコマをぐちやぐちやに。やぐちやに。封筒に入れられた原稿の束。すべて「没」と赤書き。

鉛筆でコマを黒く塗りつぶしてゆく。

○ 夜明け

「星の物語」
（ハビージュア・アートガリ）

○ 同、台所

小豆を煮てあんこを作っている健。扉の鍵が開き、綾（29）が夜勤から帰つて来る。

「おつかれ」

「（靴を脱ぎながら）ごめん、夜中の急患がこんな時間までかかっちゃって。もう寝てたと思つてた」

「疲れには甘いものが効くよ。皮、なみ食いして）おいしい」

「助かる。あんこだけで十分。（つまり気づかないふりをして）

リビングに放置された黒く塗りつぶされた原稿に気づく綾。

「…今日新人ナースがいてね。脈のとり方とかなつてなくて、ドクターの導線とか遮つちやつて、散々。私もそんな子に教える年齢になつちやつたなあつて」

「綾、出来上がつたあんこを鍋から移す。」

「綾。漫画家の嫁と、饅頭屋の嫁（ひ

ちでもいいよ。健になりたい自分になればそれでいいんだから。私はついてくし」

「若い子に教える歳なんだろ？」 大台
「…え、何、どうしたの。私はどつちになりたい？」

ニシユキカサヨウ
フツイム

健

綾

健

綾

大体日暮れ

立派な日暮れ

はるかに遡る

はるかに遡る

後宮の食卓

後宮の食卓

後宮の食卓

後宮の食卓

後宮の食卓

まくらげ屋だなあ。
とにかくぼう

とにかくぼう

さうじ

え？あれ？ 生きてますよね？」

「……」

健の腹が鳴る。

綾 健
走つて向かいのコンビニへ。
「！」

走つて
走つていい
女の人は
T2イカいがいい

× おにぎりとお茶をがっつく健。

× 「ありがとう。生き返った。一週間ろくに食べてなくて、電車賃もなくて出版社から歩いて帰つて来て……」

× 綾、熱心に原稿を読んでいる。

× 「めっちゃ面白いじゃないですか！」

× 「これでも没なんて、プロつて厳しい世界なんですね！」

健 「……ありがとうございます。フルボッコにされたやつなんだけど、ちょっと元気出たわ。あ、おにぎり代返すから。いや、原稿代出るのいつかわからないけど、必ず返すから」「じゃあ、出世払いで利子付けます」

綾、「（笑）」
綾、時計を見て立つ。

「あ、そろそろ私出勤なので」

「……あ」

「？」

婦 「……えつと、あの……次の話、看護婦ものなので、取材させてくれない？」

○手を繋いでデートする二人

「えつと、あのさ」

「なに？」

健 「んだけどさ」
綾 「いいよ。二人で住もうよ！ 取材になるよ！ お互ひ変な時間だし、ぴつたりよ！」

健 「次の漫画、カップルが同棲する話なんだけどさ」
綾 「いいよ。二人で住もうよ！ 取材になるよ！ お互ひ変な時間だし、ぴつたりよ！」

綾 「たまに。場所で、指定した時もあふ

ラストシーンへの
矢印になる
キーフレーム
オーディオブック
リード

○（回想終わり）元の公園、昼過ぎ

ベンチから起きる健。

健

○実家の饅頭屋「きん」

「何が名前があつた」方
「お父さんです」と答へた。

見せしと
二ノニテウ。
四ニニヒテ
五ニテウ。

二七三ツク
もう一回見れば
お明セアとも
お小遣いがうの
○小さなデパートの屋上

父と母が接客中。
前に進めず、逃げてしまう。

卷之二

「（え）が死んで母親を扶いていた
……どうしたの？お母さんは

れたの？

泣くベタヌ子供より

迷子預り所

スランプ一有難いございました 今からアド
ウンスします」

む。

「お母さん迎えに来るまで一緒にいて」「ミミ。」「うん。」「お母さん、お母さん、お母さん。」

横に座る
「（大喜び） ねえ！
お話して！」

おはなし！

おじいさんとおばあさんが
……

「じやあ継母にいじめられた……」

「……じやあ、とつておきを。右手にドリルを埋め込まれた男が、左手に日本刀を埋め込まれた怪人と闘う」

「なにそれ！」
「面白いか」
「面白そう！」
「そりやそうだろ。新人賞佳作受賞作

「あれ？ …… 親父は？」
「健。どうしたのよ。帰るんなら言つてくれたら」
「シヤツター閉めるの、親父の仕事だ
「お父さん、もう何年も夜はお店出て
ないの」
「？」
「ずっと落ち込んでるのよ。あんたが
「そんなこと言つたから」
「そんな……そんなつもりで言つたわ

（五）政治小説（政治小説）

一采タメレ現実。

けじや

そこへ、父が外出から包みを持つて帰
つて来る。

「何をやつとるんだ」

健父の？「あれ？ 親父寝込んでるんじやない何をやつとるんだ」

「なんのことだ」
健、母を見る。母、とぼけたふり。
「お父さん、洋菓子入りの饅頭の研究
の為に、夕方から洋菓子屋さんと勉強会し
てるのよ」

「お前が『毎日毎日同じもの作つてゐ
なんてバカだ』って出てつたのが効いてな。
どうだ?」

父
「（ひとつづつ指さす）カスターード、マ
ロングラッセ、メレンゲ……」

健 あ る て か り て 二
自 ハ ハ ロ ル ハ ハ ハ

健 「……」 父
「ははは。まだまだなんだよ。でも面
白いぞ。お前があんなこと言つて出ていか
なきや、今でも俺は毎日同じ小豆を煮てた
だろう」

父 健 母 健 人賞からどうなつたのよ? 「なんだよ」「やるじやん、親父」「ねえ、晩御飯食べてく? 漫画の新「あー、またゆつくり話すわ。今日は帰る。寄つただけ」

「今度は綾さん連れてきなさいよ」
「……」

○深夜、病院の通用口

「おつかれ！」
と同僚と別れる。

「次の新作は、新婚さんの話だから、取材させてくれないかって」

大田。

かのり

「？」

「没！」

「ええええええ」

「ワンパターンすぎ！」

「そつか……そうだよな……」

健の所へ走つて行つて、腕を組む綾。

一とりあえず、次の新作の話を聞きま

しようか

二人、歩き出す。

夜が明け始める。

いいね。うるさい
決まっている

（用環かとじる）
このときにはどう立派に
しながらストーリーだ。

○夜明けの公園

T 「大事な人を、二駅先に置いてきた」

一番最初に振ることに
勝負ワードをしつくる

たでの「夜明け公園」かいわんだけない。

このストーリーの意味が重なっているから。

いいねと感じますね。

決まりで決まりで決まりで同じく。

決まりで決まりで決まりで同じく。

動詞だけに注目して
みると。

「し」とする方が
多い。

「する」ではなく
「する」。

ぐうぐうにして、
二年もしかれて、

（女の子）壁に座る。
（寝る）走る。

（下へ）止むをせしめ